

一ノ倉邸 周先生

野 崎 英 二

同じ盛岡市の保護庭園に指定されているにもかかわらず、南昌荘と一ノ倉邸では華やかさが違う。庭園ではモデルをはべらした写真会、屋内では催し物、「三月のライオン」の撮影場所にもなった南昌荘での華やかな紅葉狩りの後に、一ノ倉邸まで足を運んでみた。「終わった人」のポスターが貼られた閑散とした駐車場は一瞬、入園をためらわせた。一人のシルバーボランティアが黙々と作業を行い、水が張られていない池は単なる窪地と化し、雑草が生えた湖底は「そこが舟遊びをした船着き場です。」という説明をして想像力のない訪問者をまごつかせた。せっかくなので、嫌がる妻は車内に残し久方振りに一ノ倉邸内に足を踏み入れた。

大きな玄関の障子戸を開けると冷たくうす暗い空気の中に、珍しく長い横物の掛け軸に書かれた、迫力がありながら気品ある古い字体の文字群に出迎えられた。玄関で説明を聞きながら楽しんだ後、特徴のある文字たちに囲まれながら廊下を先に進むと、これらの文字群の生みの親を紹介した雑誌の記事も展示されていた。改めてその丸みを帯びた現代的なデザインのような文字を見てみると、文字は襞状のグラディエーションを伴った濃淡で構成されていて、筆で書かれた漢詩名や作者名の字体との違いが面白さを引き立てていた。「指書」、指で書いた書である。これらの作品群は、中国の書道家（周先生）が同邸に滞在中に書いた書であり、ボランティアで同邸の館長をしている高齢女性の書道家に寄贈

されたものである。10数年の間何回か展示会を開催したようであるが、この冬に体調を崩し入院中の館長が、余命に不安を覚えたためか、この際その価値を世に広く知らしめたいと思ったためか、売りに出していたのである。ボランティア曰く「小さいものは千円、この大きな掛け軸は五千円、手ごろな大きさのものはあらかた若い人達が買ってしまっ
て・・・」

五千円の「床の間に入らない掛け軸を買ってどうするのよ」、感冒で体調が悪い妻との諍いの果てに、吹き抜けの階段の二階の手すりから垂らすことで居場所を獲得した漢詩は、悠然とたなびきながら朗々と謳っている。「水光激瀾晴方好・・・」

淡粧濃抹総相宜 蘇軾

※蘇軾（蘇東坡）宋代第一の詩人

中国で最も美しい湖・西湖を詠った五連作の一つ。タイトルは「飲湖上初晴後雨」。
詳しくは、NHKライブラリー 漢詩をよむ 蘇東坡100選

